大阪府内の結核病床の状況

１　全国の状況

　○入院患者数の減少により結核病床を有する医療機関数や結核病床数が減少している。

　○他自治体では、モデル病床やユニット化を組合せて、結核の入院医療体制の維持に努めている。

○入院するケースでは、身体的な合併症や精神疾患を有することが多い高齢者が増えている。

　○国は、低まん延化を達成した後の結核の医療提供体制のあり方について、全国の状況を踏まえて、改めて検討することにしている。

２　大阪府内の結核病床の推移

　平成30年度の大阪府内結核病床は382床となっており、平成31年度は292床と、この他に結核患者が入院できる結核モデル病床26床での運用となる予定です。

結核入院患者数の減少により、大阪府内でも全国同様に減床することが予想されるが、必要な病床数を確保できるように結核病床を有する医療機関には病床の確保等の申入れを行っている。今後も病院と定期的に連携する機会をもち、必要な病床確保に向けて取組んでいく。



